

令和4年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

令和4年5月17日（火） 午前9時00分～

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター 10階 101会議室

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、高梨委員、
廣崎委員、桜井委員、谷委員

（事務局）川口文化振興課長補佐、松田文化振興班主査、安藤主任主事、野口主事

4 議 題

- （1）文化施策の評価について（令和3年度評価対象事業）
- （2）次期計画策定のための市民意識調査について
- （3）その他

5 議事の概要

- （1）文化施策の評価について（令和3年度評価対象事業）
令和3年度評価対象事業について1次評価シートの報告と意見交換を行った。

- （2）次期計画策定のための市民意識調査について
次期計画策定のための意識調査について説明を行った。

- （3）その他

令和3年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告について、令和4年度芸術文化
振興事業補助金採択事業の概要及び日程についてについて説明を行った。

6 会議経過

【神野委員長】

本日は「文化施策の評価」および「次期計画策定のための市民意識調査」について議題を議することになります。議題1の文化施策の評価については、毎年評価をしておりますので、皆さんイメージが出来ると思いますけれども、次期計画については、千葉市の今後の文化施策をどうしていくかを決めていくための調査についてという事になります。それでは長時間になりますので議事の方に入らせていただきたいと思います。

まず、議題1の文化施策の評価について、令和3年度の評価対象事業に入りたいと思います。こちらについて事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神野委員長】

今の説明について何かご質問はありますでしょうか。

それでは、1次評価シートの説明の方に入っていただくことになります。これは説明を含め1事業当たり15分間、6事業全体で1時間半を予定しております。時間に限りがありますので、ご協力をお願いします。

まず、「こども支援授業 絵本朗読コンサート」について、ちばアートウインド運営企業体から1次評価シートの説明をお願いします。

<ちばアートウインド運営企業体 1次評価シートを読み上げ説明>

【神野委員長】

それでは2次評価シートを作成するための討議に入りたいと思います。討議の流れについては、事務局からご説明がありましたとおりです。

まず、1次評価シートに基づき、この内容が妥当かどうかという視点でご議論いただき、ご議論の内容や指摘事項などを整理したうえで、事務局側で2次評価シートをまとめていくという事になります。

それでは、討議に入りたいと思います。ご意見がありましたら積極的にお願いします。

最初に確認ですが、アンケートのイベントの総合的な満足度がグレーになっていて数字が読み取れないのですが、17%というのがやや不満という事ですか。

【ちばアートウインド運営企業体】

とても満足、満足が80.9%。普通については数字が書いてない部分です。やや不満、とても不満を併せて17%となります。

【瀬崎委員】

平日開催された理由をお伺いしたいのですが。

【ちばアートウインド運営企業体】

私共の事業は原則的に、まず市民利用を優先するという所がございまして、利用1年前の一般利用の予約を承ってから、開催できるスケジュールを確認することになります。もちろん、アーティストスケジュールも影響しております。

今年度はゴールデンウィークに開催できましたので、休日開催となりました。

【瀬崎委員】

日程からターゲットを考えると、もしかしたら1日だけではなく、平日と休日セットで出来たらいいのかと思います。せつかくの凝った企画なのにもったいないなと思います。平日は都合が悪い方も結構いらっしやると思うので。

【ちばアートウインド運営企業体】

幼稚園児を対象とした場合、15時開演は近隣の幼稚園などが14時前に終わりますのでギリギリ間に合うような設定にはしておりますが、瀬崎委員のおっしゃる通りだと思います。

【関委員】

3の動員で来場者数に子供と書いてありますが、これはアンケート回答者数ではなく、実際の来場者ということでしょうか。子供は何歳からなどありますか。

【ちばアートウインド運営企業体】

昼公演は小学生以下を対象としており、夜公演が小学生を対象としています。

【関委員】

事業の狙いで書いてある昼公演の来場者数の88名中子ども47名の子どもと、夕公演の子ども14名は対象が違うということでしょうか。

【ちばアートウインド運営企業体】

対象としては昼公演の方が少し幅広い形で、0歳児から小学生までです。夕公演は小学生のみが対象です。

もともと子供向け公演を昼公演に設定しており、内容も少し子供向け寄りに楽曲なども選定して演奏会を実施しています。夕公演は子どもと大人も対象とした公演になっており演奏等も子ども向け楽曲のみならず、大人向けにもなる楽曲も演奏しています。今回、子ども向けの新事業のほうが対象となりますが、夕公演も記載させていただいたので、混乱を招く形になりすみません。

【神野委員長】

昼と夕で内容と対象を若干変えていて、子供の上限は小学生以下に設定していて、昼の方はより下の子供をターゲットにしているということですね。

【椎原委員】

上演時間は昼と夜で差がありますか。

【ちばアートウインド運営企業体】

昼公演は休憩込みで90分程度です。夜公演は第1部が若干長くなりまして、休憩含めトータル120分になります。

【廣崎委員】

今、ご説明の時にコロナの対策として、席を一席ずつ空けたと伺いましたが、アンケートの中で少し密に感じたというところがありますが、どういうことなのでしょう。

【ちばアートウインド運営企業体】

この公演を実施した時期は基本的に満席まで人を入れていい期間にあたります。ただ、多くの方が隣に誰かが座ることにまだ抵抗を感じる時期でしたので、家族もしくはお友達関係のグループは隣同士でかけていただいて、違うグループ、もしくは家族の場合は席を一つ空けていただくという形で実施いたしました。来場者数も単純に半分という数字ではなくて94という設定にとらせていただいております。

基本的には見ず知らずの方とは席を一席空けてはいますが、やはりずっと半分で公演を行っておいりましたので、来場された方にとっては久しぶりにちょっと込み合った感じは印象として与えたのかなと思います。

【桜井委員】

昼と夜の2部制で内容まで変えて工夫されているのにも関わらず、アンケートの中で、平日開催に対する不満など残念な意見が書かれているのですが、今までの経験で平日が良いということがあるなど、あえて平日開催にされた理由を教えてください。

【ちばアートウインド運営企業体】

まず市民利用を優先すると休日が取りにくいという理由があります。さらに、限られた日程の中でアーティストスケジュールなども含めてすり合わせを行っておりますので、令和3年度に関しては平日開催となっております。できることであれば我々も休日祝日などに実施したいと思っておりますが。市民の皆様にとってはご不満という意見がどうしても出てしまったと思います。

【高梨委員】

最近女性の活躍ということで、お仕事されている方も多いたと思います。平日はなかなか親子で参加できないのではないかと思います。

親子ペアだと1500円のところ、子供だけの参加となると料金が千円で、子供だけで参加するときに、子供ペア券など参加しやすくなるような値段設定など考えていく必要があるのではないかと思います。やはり親子で一緒にいらっしゃるのはいいことだと思いますが、参加したことのないような方や、1人でも多くの子供が、参加しやすいように一つ考慮いただけたらと思います。

【神野委員長】

今いろいろご意見いただきました1次評価シートですけれども、今後についての話も多かったと思います。実際の1次評価の内容については、主催をしているちばアートウインド運営企業体の方でも実感として成果があったと評価されていて、3になっている部分に関しては、ほとんどアンケートの結果や集客の188人が目標に一割くらい満たなかったという所で3になったということで、おおむね妥当なのかなという気がしますけれども。あと、委員の皆様から意見をいただいた開催日程や料金についても、難しいところもあるとは思いますが、検討していくというのも視野に入れていただき、基本的にはこれで大丈夫ではないでしょうか。

【椎原委員】

先ほど市民利用を優先するという話ですが、運営体が自主的に企画するという意識でやっているのです、やはり週末に関しては市民利用をある程度抑えても、いいと思います。

劇場法でいうと、もっと自主的に企画・実践するという事も求められているなかで、市民利用優先で収益を優先しているような印象を持ってしまう。

むしろ自主性を考えるのであれば、運営体を利用するという意識の方が良いと思います。今年はゴールデンウィークにできたという事でよろしいかと思えますし、継続的にやられていてファンもいるっていう所もあるので、評価シートも妥当だと思いますし、アンケートもしっかり取られている、良い企画をいつもなさって関心いたしました。

【神野委員長】

今の平日利用と、休日とありましたけども、千葉市が指定管理者に選定するにあたって何か利用日の条件がありますか。

【事務局】

大変難しい所で、文化施設は指定管理者の方に積極的に企画提案事業、自主事業で市の文化振興を盛り上げていただきたいと思う反面、市民の方も同様に自らの活動場所として活用したいという所もありますので。やはり人気の時期、季節がございますよね。春とか秋とか。その辺のお互いの考慮はこれからも注意深く行っていかないといけないと思います。

【神野委員長】

やはり収益性を高めることも求められているので、人気がある日程を全て、運営体の自主企画のイベントで利用するというのは厳しいと思いますので、今後課題等があった場合には市と相談しながら進めていってほしいなと思います。我々としては今、椎原委員のご意見の通り、自主企画の実施も市民の利益になりますので、もう少し考えてもいいのかなと思います。

それでは、続きまして、「こども支援事業」に関して続けてちばアートウインド運営企業体からお願いします。

<ちばアートウインド運営企業体 1次評価シートを読み上げ説明>

【神野委員長】

こども支援事業 POPO バルーンフェスタについては、桜井委員に事業視察していただいておりますので、視察シートの内容について事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

<事業視察シートを抜粋して説明>

【神野委員長】

桜井委員ご視察ありがとうございました。
それでは討議に入りたいと思います。先ほどと内容は同じになりますけれども、皆さんからご意見ご質問等がありましたら、お願いしたいと思います。

【廣崎委員】

市民主体という事で、ほぼ100%市内の方という事でしたが、他の主催公演などとの比率の差を教えてください。

【ちばアートウインド運営企業体】

基本的には広報活動に関してはほぼ同じ状態で行っていますので、やはりお客様の層にもよりますが、市民の割合はほぼ同じになると思います。ただし高齢者の場合はより比率が高くなる傾向がございます。正確な数字はございませんが、これまでのアンケートではほぼ90%以上が市民の方中心です。それからあとは近隣の四街道市からなどもいらっしゃる場合がございます。

【椎原委員】

アンケートの調査をファンスペース株式会社に依頼したという事で、母数が44とか39など小さいのですが、例えば外注するならば100、200単位など、すごく大きいのであれば何となく効果があると思います。すごく丁寧に作られた表を作るのは予算の問題で大変なのではないかと推察されます。他の事業もファンスペース株式会社に依頼している中の one of them なのではないでしょうか。それともたまたまこのケースだけでしょうか。

【ちばアートウインド運営企業体】

まず、ファンスペース株式自体が、ちばアートウインド運営企業体の代表企業として、完全外部ではないという事が前提でございます。また、今回のアンケート調査に関してはファンスペース独自のアルゴリズムで組んでいるものでございます。年に1本というわけではなく、対象事業として年に各館3本程度依頼しています。

若葉は昨年度だけで、3年度は2本、美浜文化ホールは3本と、施設を借りるお客様を対象にして実施を依頼しました。来館される方と使う方と2つの利用者の方がいらっしゃいますので、総合的に若葉美浜で調査させていただいております。

【神野委員長】

全てをやれたらいい訳ですけれども、コストの問題も含めていくつか絞る中で、この我々の評価も同様ですが、見たいものを積極的に選んでいくということになるかと思えます。

【関委員】

周知度の所で市政だよりに掲載できなかったと書いてありますが、なぜですか。

【神野委員長】

市政だよりは競争が激しいですね。

【ちばアートウインド運営企業体】

掲載の締め切りが 公演よりかなり前という事で、情報が確定したタイミングでは締め切りに間に合わないというところがあります。やはりお客様のどこで情報を得ているかは、市政だよりが多く、我々が事業を周知する上での課題となっております。

【神野委員長】

追加でお聞きしたいのですが、この評価が2点になっていて、じゃあ市政だよりに掲載していたら何点になっていたのですか。非常に厳しい点数をつけていますよね。

【ちばアートウインド運営企業体】

倍以上は増えると思いますね。

【神野委員長】

市政だよりに掲載ただけで4だとしたら、他がしっかりやれているということで、3で良いのではないかと。千葉市に対する抗議ということでしょうか。

【ちばアートウインド運営企業体】

市政だよりに掲載したコンサート関係の情報は、予約の初日に問い合わせが多くなっておりまして、その辺の周知の部分が重要だと思います。

【神野委員長】

なかなか現実的にスパンの問題とか締め切りの問題とか、本当に奪い合いだと聞いておりますので、大変かと思いますが、今回周知度のところは3で良いと思います。

【桜井委員】

視察の際、すぐそばで撮影されていて、YouTubeに載るだろうと期待して待っておりましたが、すぐ翌日には映像を見ることができました。申し込みしようと思ったけれども、残念ながらコロナ禍であきらめたといった方々にはとても良い企画だと思いました。

私も手元が良く見えない後ろの方の席だったので、どのようにして作るかを、映像から体験できて良かったです。

ただし、出演者の方をリスペクトされているのか、公演内容をほぼ見せてしまう内容だったので、予告編的にチラッと見せするだけでも良いのかなと思います。後日、YouTubeに上がると思うと足を運ぶ気持ちが少し萎えてしまう可能性もあるので、毎回上げてくださるのは嬉しいことなのですが、たまにはちょっと煽る感じで、来館を誘う形でも良いと思いました。

【ちばアートウインド運営企業体】

YouTube の配信に関しましては、昨年度、神野委員長からもご提案いただきましてスタートした訳ですが、今、私共の YouTube チャンネルとしては5分前後のダイジェスト版として掲載をしております、後の方はアーティストさんのホームページに載せていただいている感じで、一応私共の事業としては認知していただいている所ですが、若葉文化ホールの関連としては配信していないので、今後また YouTube の使い方に関しては色々と考えていけたらなと思っています。

【神野委員長】

見られなかったけど見に行きたいと思われるような内容にすることを考えているという事ですね。

千城台のコミュニティセンターのロビーへの展示など、非常に積極的に知ってもらおう努力をされているなど。引き続き商業施設などで展開をしていただけると、もっともっと周知されるのではないかと思います。とても頑張られていると思いました。

【種谷副委員】

1月29日という一番大変な時期の実施だったと思います。そのちょっと前、半月前でしたら、宣伝活動等盛り上げられたと思いますが、年末年始明けで一番大変な時期に公演を実施するというので、広報活動するというのは大変だったとお察します。実施お疲れ様でした。

【神野委員長】

それでは、非常に頑張らせていらっしゃいますし、どちらかという結構厳しめに付けていらっしゃるのかなと思いますけども、少なくとも周知に関しましては2という評価は外に展開した事も含めて低すぎるのかなと思うので、これはまたちょっと見直したいと思います。それでは以上で次に進みたいと思います。どうもありがとうございました。

【神野委員長】

それでは、次は伝統文化普及事業、伝統文化体験。公益財団法人の千葉市文化振興財団の方から説明をお願いします。

<千葉市文化振興財団 1次評価シートを読み上げ説明>

【神野委員長】

それでは、二次評価シートを作成するための討議に入りたいと思います。ご意見やご質問等ありましたら、簡潔にお願いいたします。

【椎原委員】

この企画は60代以上が87.5%以上占めているという事で、やはりシニア世代が一番ヒットした。そこに出演している2つの協会の団体がいますが、おそらく会員もかなり高齢者が占めているように予想できます。そうしますと、若い人たちに対して何らかの告知の工夫などなされたのでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

コロナの影響でなかなか周知というものが出来なかったので、本年度に関しては小学校中学校に周知することを検討しています。

【神野委員長】

学校で一応周知する予定であったが、時勢をみて周知しないという判断をされたと思いますが、ちなみに周知をする場合の配布物は何を想定されていたのでしょうか。

このチラシを見ると、もし配れたとしても子供に訴求するのかなというのが正直なところだと思います。この時期は県境をまたいだ移動は避ける時期だったと記憶しているので、昨年度に関してはおそらく告知を十分にすることが出来なかったという事が言えると思いますが、今、椎原委員がおっしゃった通り、若い世代にもっともっと足を運んでもらうために、おそらく物足りないのではないかとこのころが気になる所ではあります。

【関委員】

チラシには入場自由と書いてあるが、来場希望の人は電話してくださいと書いてあるので、子供がこれをもったら電話しないなと思います。評価シートで小学校等でのチラシ配布が可能な状況であればと書いてあるので、配布するつもりであるならこのチラシは、内容がよくわからないのが正直な感想だと思います。

【椎原委員】

電話だとやはりシニア世代を想定したものになってしまうので、メールアドレスぐらいあってもいい気がしました。

【高梨委員】

産官学の一環で、オオガハスのプラットフォームをやっています。若い方が関心を持つことが大切ですので、学生さんにこの事業の方法など検討してもらう機会などを提供して、コロナ禍で発表の場がないので、学生さんの発表の場として提供してもいいと思います。学生さんの若い知恵をいただくのが良いと思います。申し訳ないですけども、現状のチラシでは興味はありましたけれども、行くには至りませんでした。チラシについても学生さんから意見をもらってもいいのではないのでしょうか。

【神野委員長】

やはり伝統文化については高齢化が大きな課題なので、市民主体で4という評価を付けているということは、邦楽邦舞文化協会あるいは茶道華道協会が中心になってやっているという事に対する評価だと思いますが、その内実は課題が大きいので、文化振興財団としても、そうした団体と何が課題で、どう戦略的に事業を行うのかを、もうちょっと積極的に戦略的に詰めていっていただきたいと感じました。なかなか大変だと思いますが、財団の大きな可能性として、団体だけではなかなかできない所を財団と一緒に考える、動くことで新しく何か切り開かれることもあると思いますので、もっと積極的にやっていただきたいなと思います。大学の話もありましたが。

【瀬崎委員】

第1部が午前、第2部が午後と分かれています、片方だけ見て帰る方が多いのでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

午前の邦楽邦舞の鑑賞は11時から12時。午後は14時から15時の間に長唄を実施してまして、その間は生け花などを見ていただくことを想定していました。

【瀬崎委員】

昼を挟んで2時間空くというのは、お昼を近くに食べに行くところがないのはちょっと厳しい。もう少しコンパクトにされてもよかったのではないのでしょうか。

演奏者にとっては、リハーサルの時間などが取れて良かったのだらうとは思いますが。

【千葉市文化振興財団】

演目が増えて、長唄に舞踊の方などが入ると、より充実するものになると考えられます。

【谷委員】

1部と2部、両方出られる演者さんはいらっしゃるのでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

1部と2部は分かれています。

【谷委員】

この邦楽邦舞文化協会さんと茶道華道協会さんの2つの団体にとってこのイベントはかなり気合の入った、晴れ舞台というイメージでよろしいでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

そうです。協会さんに関しても発表の場として一つのイベントを行うことができますので、施設と協力のうえ催し物を実施しています。

【谷委員】

演者の方たちにとっては、1年に1回の生きがいということですね。

【千葉市文化振興財団】

他の演目にも参加していただいてもおりますが、文化センターの行事としてご協力をいただいています。

【谷委員】

文化センターは色々な年齢層の方に利用いただいていると思いますが、習志野のコミュニティセンターが、高齢者の方が集う場としての機能があり、それが満足度につながっていると紹介されていました。特に高齢者層のニーズに力を入れていただきたいということではありませんが。

【神野委員長】

そろそろ時間になりましたので。コロナが理由で色々できなかったということは、確かにあると思います。ただ、それが無かったとしたらという所の工夫が読み取れなかったというのは課題としてあると思いますので、その観点から評価の方は見直しをしたいと思います。

【廣崎委員】

アンケートの集計をみて違和感なかったですか。市政だよりに掲載していないのに、アンケート結果にかいてありますよね。それを、資料とすることが私はちょっとよく分からないですけども。

市政だよりに載せられなかったのに、アンケートでは、それを見たって方がいらっしゃるわけですよね。多分勘違いだとは思いますが、それをアンケートにそのまま反映していいものなのか。

【千葉市文化振興財団】

一番上にまちがえて丸を付ける人が必ずおります。

【廣崎委員】

市民が間違えるのは問題ないと思いますが、集計した皆さんがどのように考えたのかなと思いました。

【神野委員長】

それと、一番上の欄にあるからという話ですが、やはり掲載できなかった以上は選択項目が無い方が市民には親切だと思います。

それでは以上で討議の方を終了したいと思います。ありがとうございました。

続きまして、文化芸術活動の場について説明をお願いします。

<千葉市文化振興財団 1次評価シートを読み上げ説明>

【神野委員長】

5分で行ってもらおう所を10分かかっていますので、討議の時間が奪われてしまいますので留意してください。それでは、討議に入りたいと思います。委員の皆様にはこの1次評価の内容についてご意見をいただきたいと思います。

【瀬崎委員】

コロナ下で20名の定員の中8名しかいらっしやらなかった状況で、動画配信など検討されなかったのでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

直前でキャンセルされたという事がありました。また、講師との打ち合わせの中で、動画配信の形式での講義が難しいということでしたので、今回は動画配信をしておりません。

【椎原委員】

11人の申込者のうち、団体のマネージャーの役割の方は大体何割、何人ぐらい参加されていましたか。

また、個人と区別というのはアンケートで把握したのか申込用紙で把握するのかわかりませんが、どの位いたのでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

芸術団体の方は8割位いらっしやいましたね。

【椎原委員】

8割という事は11人申し込みがあったので、8人くらいですか？

【千葉市文化振興財団】

そうですね、8人くらいです。

【椎原委員】

すごくニッチというかピンポイントでやっているものなので、それならば効果はあると思いますが、告知の仕方はそういう団体にダイレクトに強く告知したのでしょうか。

【千葉市文化振興財団】

私共の後援している団体や、アーティストバンクなども事業として実施していますので、個人に関しましてはアーティストバンクの登録者にメールを送っております。そのような形で直接アプローチをかけたということになります。

【関委員】

ただの勘違いだと思いますが、アンケートで公演はいかがでしたかという質問がありました。講座だだと思いますので、アンケートが少し雑だなという気がします。

【神野委員長】

椎原委員の質問にもつながると思いますが、やはり内容が一般の人達に向けた演奏とか舞台の公演というわけではないので、このアンケート内容もおそらく変えないと評価できないのではないかという気はしております。

ピンポイントで団体の方にまずは知ってもらいたいという事であれば、劇場のアクセシビリティということでこのチラシの作り方でもいいのかもしれませんが。

しかし、一般の人に配るチラシとしても作られていると思いますので、主たる対象ではありませんが、たまたまこれに関心を持ってこの領域にという人もいてもいいと思います。

ただ、もっと別の書き方があるのではないかとはい思います。「障害を持った方たちが一緒に劇場で楽しめる舞台公演作りとは」のように、ストレートにするほうが僕はいいと思いますね。

全体としてとてもいい講座だったとは思いますが、けれども、ちょっとちぐはぐな感じがする気がします。

そう考えていくと、内容が良かったということから非常に評価の4が多いですが、この事業の性質と今回の取り組みということであるので、ちょっと見直す必要がある部分が出てくると思います。内容自体はいいと思います。

けれども、だれに届けるのか。いま関委員からご指摘があったことなど、もうちょっと精力的にやってほしいなと思います。

それと、予算が当初329,000円になっていて、決算が88,000円になっていますが、決算はわかりますが予算が329,000円というのは割と高い気がします、高い理由は何でしょうか。

【千葉市文化振興財団】

講師の謝礼金周りの見積もりですが、予定より低く抑えられた事と、印刷費等もある程度ターゲットを絞っていたということで抑えられたことが一番大きい理由です。

【神野委員長】

もし講師の謝礼金が20万、30万するとしたら、20人を対象とするもので妥当なのかどうか。我々大学人ですけども、こんなに貰えないですね。今後は予算に関してもうちょっと精査していただきたいなと思います。

【廣崎委員】

自分で講座をやっていた時に、お電話で障害がありますと言われたのですが、どういう障害がある方が伺わないで来ていただいたことがあります。その時に対応に苦慮したので、このような講座を実施していただくのはすごくいいと思います。

今後の展望として、障害者による障害者への講座です。

この講座は健常者の方がみなさん受講なさっていると思いますが、障害者の方が入っても別にいいわけですね。

それをもっと広げてという形で色々な障害を持っている方の、見聞を広めることを考えてくださったら嬉しいなと思います。

【千葉市文化振興財団】

そうですね。実際の障害者の方のご意見なども踏まえながら取り組みたいと思います。
今回の講座も、ただ障害者施設に行って講演するというものではなく、一般の人も楽しめる講座として企画しましたので引き続き継続していきたいと思います。

【高梨委員】

このアンケートは講座、公演に関わらず、同じ内容にしているのではないかと思います。
先ほどの質問でもあったように、市政だよりに載ってないのに項目が載っているということになったと思います。
その都度必要な項目にさせていただいた方が的確な内容になると思います。

【関委員】

高梨委員と一緒にってしましますが、このチラシにある裏面のコロナウイルス感染拡大防止対策のお知らせも、いわゆるイベントの書き方になっていて、講座ではどうするのかをきちんと記載しないと、個別に対策がされていないような印象を受けてしまいます。

【神野委員長】

アンケートについて、使い回ししているように見えるのもよくないですし、各事業の狙いが違うので、公演事業であれば、同じ軸で比べられるための質問項目があつていいと思いますが、講座は講座にふさわしい項目するとともに、参加者への注意事項もそれに合わせた形で修正しないと、雑に事業を運営しているような印象を持たれてしまうというご指摘だと思います。それでは以上といたします。内容については事務局と調整をお願いいたします。

それでは、市民向け美術講座についての一次評価シートの説明を教育振興財団の方からお願いします。

<千葉市美術館 1次評価シートを読み上げ説明>

【神野委員長】

それでは今説明があつた一次評価シートについての討議に入りたいと思います。ご質問やご意見などお願いいたします。

【関委員】

2が多いような印象を受けます。1つずつ確認したほうがいいと思いますが。

【椎原委員】

この評価は、昨年度の事業を対象にしていますが、令和4年4月23日のアンケート結果から基本施策等の適合などの昨年度の事業の評価を類推したということでしょうか。

【美術館】

そのとおりです。

【椎原委員】

そうなる、評価としてはおかしいと思います。昨年のアンケートが取れていないのであれば、講座の内容なども違うので、今年度のアンケートをもとに類推してはいけないと思います。もちろん類推して、同じような結果になるだろうということは、経験値としてわかりますが。

昨年実施したことから評価しないと、評価自体が成立しなくなってしまうのではないかと危惧します。

それと、平成16年から講座をやられていたのに、満足度調査を行ったことがなかったということが、ちょっと信じられないです。

一般的な講座では必ずアンケートは取っていたと思います。どうして今まで取っていなかったのか聞きたいです。

あと、昨今、展覧会でも、アンケートはGoogleフォームで回答してもらうことなどが多いです。特に講座に関してはその場で書くことは大変だと思うので、将来的にはオンラインでの回答の方向性を示せば少しは改善できるのではないかと思います。

【美術館】

美術館展覧会についてのアンケートはここ10年以上毎回行っております。そのアンケートで市民美術講座の日に来場いただいた方にご感想をいただくこともあります。その点をこちらの一次評価シートの方で、少しアンケート例という形で実績として出させていただいております。ここに書かせていただいているアンケート例というのは昨年度の美術館を訪れた方に書いていただくアンケートの中から抜粋したものとなっております。その中で満足度を図っていたという所があります。

【神野委員長】

それは基本的には妥当ではないというご指摘と、なぜ個別の事業として実施していた美術講座に関してアンケート等の調査をして、そしてそれを踏まえて事業開発するっていう事をしてこなかったのかという質問です。

【美術館】

今回、この一次評価シートを作成することによって、長く実施してきた市民美術講座について、アンケートの調査をしていなかった事がわかったのは、自分たちでも驚きでもありましたし、ここ数年、市民美術講座のあり方を検討したいという事は館内でも議論にあっておりましたので、それも参考とするためにも、今後、改めてアンケート調査を実施していこうと思った次第です。

<事業視察シートを抜粋して説明>

【神野委員長】

桜井委員ありがとうございました。それでは他にご意見ありましたらお願いします。

【谷委員】

会期末にNHKの首都圏ニュースで紹介されていたのを見て、ジャポニズム展に行ったのですが、市美術館の中核的な事業として、非常にレベルが高いと思いました。学芸員さんの解説、プログラムもそうですし、日経新聞で田辺副館長の連載もありました。

会場では音声ガイドで作品が解説されていましたが、市民美術講座の内容のさわりの部分を入れるなどすると、特に若い人の勉強や、興味を持つきっかけになるのではないかと思います。

このような、中核事業があるときに、どこまでアイデアを広げていくか、市民の方、特に若い人たちにどのように広げていくか、何ができるのかを色々考えることが重要だと思いました、毎年ジャポニズ

ム展レベルを実施することは大変かもしれませんが、そのような広がりには市美術館には期待されると思いました。私自身は行かせてもらって、千葉市民として誇りに感じました。

【椎原委員】

ギャラリートークもやられますが、ボランティアや、イヤホンガイドもあって、それで講座を実施する時に、例えばこれを入門編としてやるのか、もっと高度な専門性でやるのかということがあります。

入門編で実施となると、教育普及的なことでスキルは磨かれるかもしれませんが、学芸員の学芸的な研究スキルをあげるためには、学会発表のような新しい知見を発表する部分があってもいいと思います。ただ、そうすると難しすぎると言われる可能性もあるとは思いますが、高齢の方は社会学習として凄く勉強されていて、本当に詳しいですので、啓蒙目的という位置づけでもいいかもしれません。

入門編と学術発表の場とでメリハリをつけるのもいいと思いますし、講座に対して美術館の方向性を明確にする必要があると思いました。

優れた講座をしてらっしゃるのは十分に理解できていますが、新たな観客を得るためというのは、もったいない気がします。その辺のバランスをとるのが難しいのは十分理解していますが。

【神野委員長】

おそらく、美術講座という一つの名称で、中身が何なのかということ、もう少し戦略的に、対象や狙いによって検討していただきたいというお話だと思います。

私も経験ありますが、担当学芸員が何となく話す内容を決めてということがあります。決して悪い意味ではないですが、事業の目的が何かを厳密に考えて、内容について精査するということがなかなかできていないのだと思います。

今まではそれで良かったのかもしれないですが、今後は市の美術館として求められること、そしてこの事業でねらいとして何を達成するのかを戦略的に考えて動いていくと良いと思います。コンテンツはもうすでに優れたものがあるので、それをどうやって磨いていくかが課題ではないかと思います。

【関委員】

そもそもの話ですが、神野さんや椎原さんは、高度なことを話している気がします。こ

ここでは評価のことを話しており、その評価の上では、先ほどの講座内容についての話とは、全然話が違うと思います。

そこで、講座についてどう評価するのかを考えた場合、例えばこの基本施策との適合に2と評価していますが、今までの流れでいうと415人で7回実施できたなら、3という評価でも良いと思います。

この場が高度に専門的なことを話す場なのか、少し立場がわからなくなっている気がします。

【神野委員長】

何を狙いにするのがそもそも曖昧かもしれないということと、あとは、アンケートを取ってないので、その狙いに関して評価することが実際にできない。内容について意見を言うしかないというところが実際のところですね。じゃあ、数だけを見てそこそこ達成できているという形で良いのではないかとということもあります。

費用対効果について違和感があって、事業での支出がないから費用対効果が高いというのは、あまりにも単調すぎるのではないかと思います。市の予算が、財団に回ってそれが給料になっているので、コストはかかっていることになります。

そして、その職員の業務はそれぞれ決めておられると思いますが、本来やらなくていい事業を実施している訳では無いと思うので、人が動くことで人件費がかかっているという意識を持つことも重要だと思います。

【種谷副委員】

ちょっと評価が厳しすぎると思います。

【神野委員長】

まあ、評価すべきところは評価して、ちょっと甘いなっている所はまた見直す事になるかと思います。

それでは、千葉市文化振興課の方ですね。メディア芸術マジカルミライについて、一次評価シートの説明をお願いします。

<事務局 1次評価シートを読み上げ説明>

【神野委員長】

メディア芸術マジカルミライについては、椎原委員に視察いただいておりますので、こちら事務局より説明をお願いします。

<事業視察シートを抜粋して説明>

【神野委員長】

それでは討議の方に入りたいと思います。質問ご意見等お願いいたします。

【椎原委員】

視察した立場から厳しめに書いた理由は、この事業はメディア芸術支援なのか市のPRなのかということです。メディア芸術支援というのであれば、文化芸術基本法の意味するところの、漫画も含まれるものがメディア芸術となると思います。

ただ、初音ミクというパッケージを利用して、41万円で市のPRできたということであれば儲けものという感じがします。ただ、それをもってメディア芸術を育成したみたいなことは言えないと思います。

平成30年にはデザイナー学園に協力いただいた事業があったかとは思いますが、現状では、市PRのための広報活動の一環であるように思えます。

初音ミクを千葉市で実施しているから千葉市がメディア芸術を支援しているとはちょっと言い切れない部分があるのかなと思いました。

【文化振興課】

この事業の始まりが、市の観光プロモーションの方で始まった事業で、そもそも市のPRが目的の事業でありました。

ただそれが文化振興課の方に事業が下りてきまして、当課の方でメディア芸術の振興を進展させていくべき所ではあったのですが、椎原委員におっしゃっていただいた通り、平成30年のデザイナー学院との関わりを最後に次第に発展性が失われていることは、事務局の方でも十分認識しておりまして、今後この事業をどうしていくのかメディア芸術の振興を含めて考えていかなければならないと思っております。

【神野委員長】

千葉市にとってメディア芸術って一体何なのかっていうのが正直分からないですね。例えば質問ですが、千葉デザイナー学院の学生ボランティア運営というのが、今回できなかった。これは内容としては何をやる予定でしたか。

【文化振興課】

今回コロナで中止した内容は、市内の高校生を対象にしたイラスト講座を千葉デザイナー学院の施設とか運営に関して学生ボランティアさんに参加していただいて、開催することを予定していました。

【神野委員長】

それは例えばペンタブレットを使って、グラフィックを描くことではなく、一般のペンとかで書くイラスト講座でしょうか。

【文化振興課】

講師の方が初音ミクのマジカルミライに合わせて開催するイラスト講座であることから、マジカルミライに関わったことのあるイラストレーターさんがいらっちゃって、生徒さんの前で自分のイラストの描き方などを口頭で説明などしていただきます。

先生は画面等でイラストをお示しいただけますが、生徒さんは画面等を使って受講するという形ではないので、ちょっと座学に近い形になっています。

【神野委員長】

やっぱり事業全体の立て付けが、よくわからないというのが正直なところですね。

【谷 委員】

事業費決算の41万のところの内訳はどのようになっているのでしょうか。

【文化振興課】

こちらの方は主に缶バッジの製作費用として使用しております。ほかには、マジカルミライのイベント会場に出展するにあたって必要物品の購入や、借用品の使用料という経費で使っております。

【谷委員】

イベントの千葉市ブースの出展料はありましたか。

【文化振興課】

出展料に関しましては主催者側のご厚意で、無料にさせていただきました。

【谷委員】

初音ミクもいいと思いますが、やはり千葉市ならではのキャラクターがあるといいかと思えます。他に使わせないとかは難しいと思いますが、千葉市の文化芸術のアンバサダーの役割をしてくれる、一緒に発展していけるようなキャラクターを作り上げて、そのキャラクターが多面で千葉市の文化芸術やそれ以外の活動に関わっていけると良いと思えます。

既存のキャラクターを活用すること自体、それはそれでとても良いと思いますが、千葉市が主体としてのストーリーとして発展していくキャラクターを戦略的に起用すると良いと思えます。

それから何より、文化振興課の皆さんが楽しかったですか。運営が楽しむことで、周りの参加者も楽しい気持ちに巻き込まれていくので。

【椎原委員】

会場を回ってみると、アプリをダウンロードすると記念品プレゼントなど、バイアスをかけてやっている中で、写真撮ってくれたらバッジをプレゼントということで、凄く低い所からお願いしますという雰囲気でした。

そのような状況なので、もらった人の中で千葉市民がどのくらい缶バッジをもらったかといったアンケート取れないのです。

イベントに来る人は全国から来るので、イベント終了後それが全国に帰っていくということになるので、やはりPR効果だったのかなという気がしました。

【谷委員】

幕張メッセのイベントにしてもXゲームにしても、全国からくる人々にしっかり場を提供していると思い

ました。

【椎原委員】

まあその、エクспレッシブみたいな話をしましたけれども、もしそんな事やったら凄くお金かかってしまうので、なかなかできないことなのですが。

初音ミク自身が誰とでも共有できるアイコンでもあるので、仕方がないですね。

【関委員】

ホームページの市章のデザインを変更したことは、情報が得られなくて知らなかったのですが、すごいことだと思いました。これは1日限定なのでしょうか。開催期間が5、6、7日なので、せめて開催期間中でできたら、もうちょっと話題になることもあったのではないのかなと思います。やはり1日だと見逃がしてしまうのではないかと。1日でないとはやはり難しいでしょうか。

【事務局】

初音ミクの誕生日がマジカルミライの開催日前日ってというのが、イベントの宣伝でありました。そのお誕生日を記念してということで1日限りとなっています。

しかし、それを発展させずに1日限りということをやっと続けてしまったことがありますので、そこは何か検討できたらなと思います。

【神野委員長】

そこは難しいような気がしていて、私の最寄駅の駅前に人という彫刻があって、直立している若い夫婦像みたいな銅像があります。僕の個人的な趣味としては、ものすごく嫌です。

つまりパブリックの物や市章は典型的なもので、それを変えることについて、全員の了解は得られないにせよ、実施について合意があって進めている事業とは私は思えないです。ですので、僕の感覚からすると、市章を1日でもため息しかでないというのが正直なところです。

【関委員】

今まで、このようなことも実施してこなかったと思うので、珍しいなと思いました。

【神野委員長】

このような柔らかさを出すのであれば、もっと柔らかさを出す所があるのではないかと感じてしまいます。そう考えると4が多すぎると思います。

【椎原委員】

会場で市役所のホームページ観て、本当に変わっていると思いました。スクショを取れば良かったなと思いました。

【神野委員長】

遊び心は凄くいいと思いますが、実施するからには、その狙いやどのように周知するのかがしっかり市民に届かないといけないと思います。

行政がやることは、ネタ的なもので終わっちゃう印象があります。この事業に関しては、本来はメディア芸術の事業ということで、ちょっと評価としては甘すぎると思います。

まあ、自らやっていることに関して、なかなか難しいと思いますが、ちょっと厳しく見るべきところについては見直しをするべきだと思います。

今後メディア芸術はどうなりますか。

【事務局】

それは次期計画の設計と見比べて今後を検討できたらなと思います。

【神野委員長】

討議の方は以上で終わりにして、また内容については事務局と詰めていきたいと思いません。委員の皆様には確認の依頼がされるかと思いません。

それでは「市民意識調査の調査内容について」に進みます。

【事務局】

<資料2-1から2-4を説明>

【神野委員長】

ありがとうございます。時間がないので基本的にこれで資料をお持ち帰りいただいて、事務局の方にご意見があれば寄せていただくということにしたいと思いますが、この場で確認したいこと、どうしてもここを確認しないと作業が出来ないということを確認したいかと思いません。

ちょっと1つだけ。最後の質問項目に加味する要素の一番上の①の所です。文化教育芸術というより文化芸術教育ですね。

【事務局】

文化芸術教育です。

【神野委員長】

基本的には今の計画があって、国の計画が新しく策定されて、市は新しい市の方針を考えているところです。国が求めていることで現計画にはありませんが、千葉市の計画の中にはこれは読み取れるというものを推進していきたいということです。

それに関して市民がどう捉えているかを聞きたいという内容ですね。ちょっと分かりづらかったかもしれません。

【谷委員】

今のご説明では、国の計画があってそれに基づいて千葉市の基本計画も進んでいる。その文脈の中で、新しい市の文化芸術振興を導入する形だと理解しました。

国の方針の文言や市の基本計画が新しい文化芸術振興にもれなく反映されていますとい

う確認のような感じがします。

行政の決めごととしては大事なことなのかもしれないですが、それだけでいいのかと思いました。

今日の議論の中で、例えば市政だよりに頼りきった広報手段という話がありましたが、それを千葉市としてはどうしていくのか。

市の基本計画の最初の方に、本市の特性である時間や空間のゆとりを生かすという文言がありますが、これは本当にゆとりがあるならとても良いと思います。

時間的ゆとりというのは東京に通勤する人は少なくなってきて、千葉経済圏で完結できるようになれば、それでゆとりが生まれる。そのようなことがもう少し記述されていないと千葉市ならではの文化芸術振興のありかたにリンクしていかないのではないかと思います。

何でもかんでもアンケートすればいいという話ではありませんが、文化芸術振興計画をもう少し幅広に考える必要があるかもしれないと思います。

【神野委員長】

市独自の視点っていう文化芸術振興計画に関して独自の視点っていうのを持つために何を聞くべきことか、どういう風に考えていけるのかっていうご提案かと思います。

【関委員】

第2次千葉市文化芸術振興計画の概要の1のところで文化芸術を取り巻く環境の変化があります。実感としてコロナ禍ほど文化芸術の環境の変化を感じるものはないですが、それは全く書かれないのかと思いました。

コミュニケーションと自己表現の変化とコロナ禍。それが足りていないかと思います。

【神野委員長】

文化芸術基本法が策定されたときもコロナ禍ではなかったのも、それが拾うことができないという事もありますよね。

【関委員】

ちょっと古いと感じてしまいます。

【椎原委員】

国がコロナのことを書いてきたら、またそこに追従していく形になると思います。

障害者ケースにはかなり突っ込んだ施策しているので、もうちょっと社会包摂とだけでなく、言えるのかもしれないという気はしますね。

【神野委員長】

既に実施している事業に関しては、市民が知っているのかという問いが必要になってくると思います。その辺の精査は事務局の方で今後やっていくという事ですよね。

【事務局】

障害福祉の担当部署や教育委員会がそれぞれ持っている計画の更新時期は、我々が策定

している時期と同様の時期になります。各部署と連携を取りながら進めていきたいと思
います。

【神野委員長】

今日の所でいうと文化芸術基本法策定の時と状況が違っているので コロナの部分が不
足しているのではないかとこのころですね。

国の計画だけ参照しているとなかなか現状に則したものができないので、項目の洗い出
しもしたいと思しますので、また委員の皆様にも意見をいただけたらと思います。

メールにお聞きしたい点というのを整理して、投げさしていただくという形で進めさ
せていただきます。

次の振興計画のために皆様方に御尽力いただけたらと思います。

今回の評価は時間が色々かかってしまったので、こちらにあまり時間が取れませんでした
が、事務局の方から問い合わせが行きますので、またそれを踏まえまして、振興会議の
方でまた議論させていただければと思います。

それでは、第1回の振興会議を以上で締めさせていただきます。